

令和7年度 学校評価アンケート（後期）の考察

学校と家庭が二人三脚で子どもを教育していく中で、取組の是非を問うのではなく「子どもの姿・思い」から学校と家庭の取組を検証・ステップアップしていきたいと思い、本年度、質問項目を見直した。

1 1項目について、前期との比較から見える現状分析と今後の方向性は以下の通りである。

1 学校教育目標の認知

全体的に低迷している中で、保護者の認知度は上がったが、生徒の認知度は下がっている。学校教育目標にある「ふるさと」「幸せな未来」という言葉は、本校がこれから力を入れて取り組んでいく起業家教育のキーワードでもあり、学校教育目標と関連していることを教職員が認識し、生徒、保護者に周知していきたい。

2 地域協育・地域貢献

保護者は肯定的な回答が概ね90%に達しており、生徒の参加度も40%程度から60%程度に高まっている。「島での起業は、未来でできる地域貢献」、「ボランティアへの参加は、今できる地域貢献」であるので、周防大島創生の志を育む取組の一環として、生徒に地域活動への参加の意義をもたせ、アフタースクール・プロジェクトを主軸とし、積極的な参加を促していきたい。

3 ふるさと創生の志

生徒は肯定的な回答が80%に達しており、意識が高い。子どもたちが周防大島町に居ながら、豊かな生活を送ることのできるための教育を展開することが本校の使命と認識している。3学期から、起業家教育カリキュラムを試行実施しており、次年度の本格実施へとつなげていく。

4 「わかる」「できる」授業

80%を超える生徒が、授業で「わかった」「できた」と感じている。本年度、授業の導入・教材（教具）の工夫について校内研修に取り組み、生徒の知的好奇心を揺さぶり、授業参加を促すとともに、ユニバーサルデザインの視点からの授業づくりを行っており、その成果が表れつつある。

5 家庭学習

家庭学習に取り組んでいると回答した生徒が75%まで向上した。起業家教育による大局的な「学びの必然性」、各授業における「学びの必然性」をもたせ、生徒が授業に向かい、家庭学習が授業と授業をつなぐという好循環を生み出していきたい。

6 学校行事・委員会活動・係活動

80%を超える生徒が学校行事・委員会活動・係活動で達成感・充実感を味わうことができている。2学期に行われた体育祭、文化祭、町音楽祭における生徒の姿からも頷ける。文化祭終了後は大きな行事がないため、モチベーションが下がってしまうところが課題であるが、今後、2年生を中心とした新生徒会の活動により、さらなる学校づくりが期待される。

7 学校のきまり

90%の生徒が学校のきまりを守り、生活していると回答している。本年度、生徒会スローガンとして「改」を掲げ、多くの生徒自身が規範意識を高めようとした表れである。今後、生徒指導部と生徒会が一緒になって、ポジティブ行動支援による学校生活の質の向上をめざしていくことにしている。

8 いじめ

90%の生徒、97%の保護者がいじめをしていないと回答している。本校の生徒は、自分の感情に素直で瞬発力があるが、陰湿さは感じられない。いじめにつながりかねない日常の小さな言動やトラブルについてアンテナを張り、早期対応、未然防止に努めていきたい。

9 教育相談

80%を超える生徒、保護者が相談できる、相談しやすいと回答している。平素からの温かい関係づくりに努め、生徒、保護者からの相談・問い合わせに対し、経緯や困り感、疑念を傾聴し、丁寧な説明とスピード感のある対応を心掛けていきたい。

10 柔軟性・体力の向上

70%の生徒が取り組んでいると回答しているが、本校は体力テストにおいて全国平均、県平均を下回る結果となっている。本校の現状としてバス通学生徒が多く、外出時も自家用車やバスを利用することが多いなど、日常的に運動不足になりがちである。本年度は、体力向上の推進校に選ばれ、元オリンピック選手やプロスポーツ選手を講師に招いての運動教室を複数開催することができた。今後は、部活動をはじめ保健体育の授業において柔軟運動や補強運動を取り入れていきたい。

11 睡眠・食事

80%の生徒が取り組んでいると回答しているが、低下傾向が見られる。年度の後半は冬季に向かうことに加え、3年生が部活動等を引退するため、やむを得ない面もある。しかしながら、近年ではスマートフォンの普及や SNS 等の発達に伴い、睡眠不足に陥る生徒が多いため、健康・体力的な視点からもメディアとの向き合い方について指導を工夫していきたい。また、町が推進する「ちょび塩」が家庭へ浸透することにより、生徒が薄味に慣れ、給食の残食ゼロにつながることを期待している。